ゆいっこ花巻新聞 結

〒025-0073 花巻市一日市4-21
TEL/FAX:0198-22-4748
E-mail:info@yuicco.com
http://hanamaki.yuicco.com

2017年2月21日発行

2月の予定

22	水	事務所・カフェ休み
23	木	・運営委員会13:30～ ・カフェ休み
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	事務所・カフェ物品入札・配付（～3月3日） 10:00～15:00
28	火	

―― 白鳥・ヤクルト工場見学 ――

1月28日、12名で北上に出かけました。

北上総合運動公園内に隣接する新堤はほとんど凍結していましたが、わずかに水面が残る隅に白鳥とカモが集結していました。水際までおりて数えると、白鳥は54羽いました（カモは数えきれません）。食べ物を期待して（？）近づいてきた白鳥がいましたが、ごめんね、餌やりは禁止です。

次に岩手ヤクルト工場へ向かいました。視聴覚室で出来立てのヤクルト400をいただきながら、会社紹介のビデオを見ました。作ったばかりのヤクルトには、流通しているものより乳酸菌がたくさん入っているそうです。

この工場では、1日200万本のヤクルトを作っていて、目の回るようなスピードでヤクルトが流れていました。製造機械を毎日ばらばらにして洗浄し、また組み立て直すというお話にはびっくりしました。

工場でいただいたお土産を手ににっこり

―― 山田バスツアー ――

2月17日（金）、山田町の「観光物産館とっと」へ海鮮焼きを食べに行きました。花巻からは14名がバスで出かけ、大槌町へ帰還された5名と「とっと」で合流しました。帰還した方々に声をかけて取りまとめてくださった佐々木睦子さん、新里さん、ありがとうございました。

大なべにてんこ盛りのカキ、赤皿貝、シュウリ貝は蒸し焼きに、ホタテは直火で焼きました。おにぎりと海藻スープがついていましたが、おにぎりなんか食べている場合じゃありません。貝を食べた、食べた、食べた。貝だけでおなかいっぱいにしたのは生まれて初めてです。

食後は買物タイム。皆さん、生ガキやホタテを争うように買い求めていました。

食べながらだけでは足りず、バスに乗り込む寸前まで懐かしい方々同士、話が弾んでいました。

大なべを前に焼き方の説明を聞く

3月の予定

1	水	事務所・カフェ物品入札・配付 10:00～15:00
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	・ママ・グランマお茶会 11:00～　日和佐
8	水	事務所休み
9	木	・企画会議13:30～ ・物品入札開票
10	金	
11	土	追悼行事　妙圓寺（3ページ参照）
12	日	
13	月	・落札品受け渡し開始 ・気がかり担当者と元お茶っこカー 担当者の集い　11:00～　ホテル花城
14	火	
15	水	事務所休み
16	木	
17	金	
18	土	浜ちゃん移動販売日　妙圓寺前14:00 （マルイシ前での販売はありません） 4月以降も毎月第3土曜日の移動販売は続けますので、お待ちしております。
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	事務所休み
23	木	運営委員会13:30～
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	事務所休み
30	木	
31	金	

―― カフェの閉店・事務所の閉鎖 ――

ゆいっこカフェは、2月末日をもって閉店いたします。今までのご愛顧に感謝申し上げます。

事務所は、3月末までの水曜日を除く平日には事務局が常駐しますが、片づけ作業のため留守がちになります。在室を電話でご確認の上、事務所においでください。

―― ママ・グランマお茶会 ――

3月7日（火）11:00～　日和佐

最後のお茶会です、軽食をとりながら、楽しく語り合いましょう、たくさんの方の参加をお待ちしています。

連絡先：　佐々木一愛　090-4040-3376
熊　谷　光　080-1829-0223

―― ゆいっこ同窓会名簿の確認を！ ――

ゆいっこ同窓会名簿にお名前を掲載することに同意した方には、同窓会名簿を同封しました。ご自分の欄を確認して、間違いがありましたら事務局までご連絡ください。修正して、訂正版を皆様にお送りします。

また、名簿掲載を希望したのに同封されていない場合もお電話ください。

コンサート延期のお知らせ

3月25日午後1時からの、イーハトーブ大使古川精一さんとフォレスタメンバー澤田薫さんのコンサートは、古川精一さんの都合により延期になりましたので、お知らせいたします。

古川精一後援会代表　林正文
☎0198-23-5439
古川精一後援会事務局　佐藤　仁恵
☎0198-24-3419

花巻市内への避難者数

釜石市 55世帯 99人、大槌町 75世帯 156人、陸前高田市 13世帯 18人、山田町 19世帯 38人、大船渡市 17世帯 35人、宮古市 14世帯 25人、宮城県 21世帯 40人、福島県 7世帯 14人

合計 220世帯425人（平成29年1月31日時点）

文化会館の2・3月のイベント

2月25日（土）	第41回花巻市民劇場公演 『イーハトーブ・ジャンクション』	大 ホール	18：00開場 18：30開演	大人前売1,000円 当日1,300円 小中高生前売500円 当日700円
2月26日（土）			13：30開場 14：00開演	
3月4日（土）	花のパナソニックフェア	中 ホール	9:30～ 16:30	無　料
3月5日（日）				
3月7日（火） ～ 3月12日（日）	さくらい呉服店京呉服展示会	展示 ホール	10：00～ 19：00	無　料
3月11日（土）	名作子ども映画会 「ほえろブンブン」	中 ホール	1)10:30～ 11:50 2)13:00～ 14:20	
3月19日（日）	第5回ダンスKAZU発表会	中 ホール		無料
3月26日（日）	花巻市民芸術祭 「金星少年少女オーケストラ 第6回コンサート」	中 ホール		500円

―― 3．11追悼行事 ――

3月11日、妙圓寺で追悼行事を行います。
出席の**申込は要りません**。ご自由においでください。

******* **次　第** *******

13：00　受付
13：20　開式の挨拶、住職挨拶、
　　ゆいっこ花巻代表挨拶
13：30　読経・献花
　　コーラス（妙圓寺ローズコーラス、
　　大谷コーラスコスモス、虹のコーラス）、
　　被災地の子どもたちの作文朗読
14：30　参列者への御礼と勿忘の鐘、
　　お茶会の紹介
14：46　勿忘の鐘
　　お茶会

妙圓寺では、<u>来年以降も追悼行事を続けます</u>。毎年3月11日14時46分に勿忘の鐘をつきますので、その時間に合わせて妙圓寺においでください。

―― 宮澤賢治カフェ ――

日時：3月18日（土）　14：00
場所：賢治の広場（上町下）
内容：お話
　　「宮沢賢治記念館について」
　　朗読
　　「祭のばん」「植物医師」

※）宮沢賢治に学び、宮沢賢治を楽しむつどいです。第1部と第2部、合わせて約1時間半の内容で宮沢賢治について知識を深めます。

いわてゆいっこ花巻の活動を支えたリーダーさん達の挨拶です。お声をかけて、原稿をいただいた方のみ掲載しています。代表・副代表を除き、掲載はお名前の五十音順です。

いわてゆいっこ花巻　代表

大桐　啓三

ゆいっこ新聞は通算 65 号となる今回の発行で役目を終えます。

昨年 11 月の総会でゆいっこ花巻が 3 月末で解散することになり、それまでの予定をお知らせする本紙が最終便です。6 年の間に内容もその時々のニーズに合わせ、110 軒余り（2017 年 1 月号現在）の方々に会員情報を提供してきました。

これからは今まで作り上げてきた繋がり（連絡網）、現在取りまとめ中の同窓会名簿などを使い、情報交換の場を作っていきたいと思います。

長期にわたり、編集・発行に係った皆様にお礼を申し上げます。

いわてゆいっこ花巻　副代表

鈴木　富士子

ゆいっこ花巻で沿岸の方を支える活動をして、もうすぐ 6 年になります。

思えば、沿岸の方皆様に助けていただいてきたと思います。ありがとうございました。

震災での出会いでしたが、これからもよろしくお願いします。

ゆいっこスタッフの皆様、いたらない私を支えてくれてありがとう。

「自立支援」と「心のケア」

岩田　宗彦

花巻市に災害公営住宅（市営住宅）が建ちます。入居希望者は 2 月 24 日までに仮入居申込書を市役所へ提出してください。これが最後のチャンスです。

・建築場所：花巻市上町・仲町

・計画戸数：25 戸ですが、増減する見込み

・申し込み：花巻市役所新館 3 階

都市政策課・及川係長

電話 24－2111（内線 546）

・募集期間：2 月 24 日（金）まで

この市営住宅は 2018 年度（平成 30 年）に完成します。翌年から「みなし仮設住宅」は廃止されます。

昨年春まで「心のケア」活動を続けました。ゆいっこ花巻は解散しますが、高齢世帯の不安相談を受け付けます。子供世帯との同居が減少し、全世帯数の 56%が高齢夫婦世帯と高齢単身世帯になりました。高齢者の孤立不安に対応する公的機関はありません。一緒に考えたい方は電話してください。

090-7799-3697

となりの畑

小田嶋　政博

6 年間、ゆいっこを立ち上げ、継続、運営くださったスタッフのみなさんに心から感謝いたします。

4 年前、被災者、市民、ゆいっこスタッフ 20 人ほどで「となりの畑」が始まりました。草とりしながらのおしゃべり、いっぷく時の円卓談笑、日帰り温泉、収穫祭等でメンバーの交流も深まり、被災者の精神的ケア、健康の一助になったと思います。

今後、「となりの畑」をどうするか？　話し合

いました。結果、「花巻ゆいっこ畑の会」として4月1日から20人ほどの希望者で続けることになりました。これからもみなさんの協力、力ぞえをよろしくお願いいたします。

ママ＆グランマお茶会

熊谷　光

震災の年 9 月から、花巻に避難してきた若いママとおばあちゃんの交流の場として企画された会でした。月一の定例会、年に数回のイベントで多くの出会いがありました。知らない土地で途方に暮れ、震災のショックで心を閉ざしていたママたちも少しずつ明るさをとり戻し、若いエネルギーをもって、今ではそれぞれの生活を確立してきています。頼もしい限りです。ママのオッパイを飲んでいた赤ちゃんたちも保育園、幼稚園に通いだしました。そんな姿を見ていると嬉しさでいっぱいになります。

ゆいっこの解散と共にこの会も 3 月で終了となりますが、ママたちは強い絆ができています。これからもお互いに助け合っていくことでしょう。

立ち上げから今までサポートして下さったまんまるサロンの佐藤美代子さん、いつも暖かく接してくれた市内のママたち、お世話になりました。ありがとうございました。これからも変わらずよろしくお願いします。私たちゆいっこのスタッフも出来る限りのお手伝いをしていきたいと思っています。

二枚橋福寿会お食事会

鈴木　洋子

二枚橋福寿会さんは、20年以上にわたり花巻市二枚橋地区住民の交流の場「たまりっこ」を続けてこられました。2011年12月にはゆいっこのために交流会を開いてくださり、「毎週やっている昼食会に、これからは被災者の皆さんもどうぞ」と誘ってくださいました。

こうして2012年2月から、ゆいっこは毎月2回くらい3～4名が「二枚橋福寿会お食事会」に参加、のべ人数にすると200名以上がお世話になりました。

会場の川村さん宅では、栗ご飯やあんこ餅、ひっつみ、季節野菜の和え物、煮物、佃煮などの手づくり料理をいただいて話も弾み、福寿会の皆さんも熱心に耳を傾けてくださいました。

お花見や忘年会、金婚停の結海イベント参加やコーラスコンサート鑑賞などにも一緒に出かけました。2014年9月に食事会が休止したあとも、色々な場での交流が続いています。二枚橋福寿会の皆さん、そして参加してくれたゆいっこの皆さん、本当にありがとうございました。

山田同郷人会

瀬川　清

大震災から早 6 年目を迎えようとしています。あっという間の 6 年間でした。花巻に移り住み、最初は無我夢中で今を生きるのに精いっぱいで、明日のことを考える余裕などはありませんでした。

しかし、そのころにゆいっこ花巻の存在を知り、その仲間として共に活動を行い、沿岸被災者の方々との交流を始めることになりました。その中でいろいろな交流会・旅行等を行い、沿岸にいるときより充実した生活を送れたと思っております。

花巻に残る被災者の方も当初から比べると半数程度に減少しておりますが、残っている仲間たちとこれからも交流を続け、楽しく

生きていきたいと思っております。皆様、今後ともよろしくお付き合いください。

気仙沼会

畠山　咲子

ゆいっこさんのお陰様で親戚、知人のない花巻で生活する事が出来ました。「困ってる事がないか」「物資で足りない物はないか」と何時も声を掛けて頂きありがとうございました。

気仙沼では知り合うことが無かった方々とも知り合いになり、毎月１回温泉とランチを続けており、これからも続けるつもりです。最後に私の事になりますが、高木に家を建て、孫娘達も春から小学２年、５年になり、住めば都。花巻で穏やかに生活、畑の方々とも親交が出来ました。遊びに来て下さい。

気仙同郷人会

村上　淳夫

あの 2011 年 3 月 11 日襲来の東日本大震災大津波により沿岸被災地の復興支援や花巻市内の避難者生活再建への支援活動がおおむね目的を達成したとのことで、「ゆいっこ花巻」がこの 3 月末日をもって組織を解散することが決定されました。

まず、この「ゆいっこ花巻」を立ち上げたスタッフの皆様、そして長い間、運営に当たられた役職員、ボランティアの皆様、本当にご苦労様でございました。又、大変お世話になり感謝の念で一杯です。心から御礼申し上げます。

おかげさまで、沿岸地域の復興もだいぶ進みつつある様子で、我が故郷大船渡市では復興住宅の建設、住宅の高台移設も完了間近で、仮設住宅も来年度一杯で撤去されるとの報道がされております。

花巻市内に避難している方々の中には、まだまだ安心・安定の生活に戻っていない者も大勢見受けられ、このほどのゆいっこの解散決定はとても淋しいとか惜しむ声も沢山あることも事実です。

しかし、その任を花巻市社会福祉協議会に一部承継するとのことで、これもやむを得ないことだと考え、ただただご苦労様だったと申し上げる次第です。

私は、震災直後、地元仮設住宅建設用地交渉の任を引き受けたが、その仮設住宅が完成し、地域公民館での避難所も解散となったとき、花巻市在住の長男家族の勧めもあり、熟慮に熟慮を重ねた末、慣れ親しんだ故郷を離れ、この地に骨を埋める覚悟で、同年 7 月末日、今は亡き妻と 2 人で花巻市にお世話になることとした者です。

しかし最初は家族以外には誰一人として知っている人もおらず、又、花巻市（内陸）の風土にも馴れず、毎日が離れた故郷を思い出しながら淋しい時を過ごしておりました。しかし「ゆいっこ花巻」の存在を知ってからは、大変な力強さを感じ、花巻市での生活に大きな勇気が出たことを覚えております。

まず、花巻市に来て初めて人の名前を覚えたのもゆいっこのスタッフの皆さんでした。又、生活品物資のあっせん、避難民を元気づけるための催事の開催、その他諸々の事業を催し、私たち被災民を助け、元気づけていただき、本当に心の支えとなった組織だったと思います。

このたび、「ゆいっこ花巻」が解散しても、私たち被災民は、今後とも真の復興を目指して、元気で楽しい人生を送られるよう、一層精進してまいりたいと思います。

本当にありがとうございました。